

5. 生物種の絶滅

2005.6

● リョコウバト



1800年 リョコウバトが渡るときは空は真っ暗になった（50億羽）
羽布団に、ブタのえさに、面白半分に、次々と殺されていった

1860年 鳥類保護法が成立したが
リョコウバトは除外

1867年 各州でリョコウバト保護法が成立
しかし、すでに絶滅寸前に

1914年「9月1日午後1時、シンシナティ動物園の鳥カゴの止まり木から最後の1羽マーサが静かに落ちた。この時、リョコウバトは永遠に地上から失われた。全米は悲しみに沈んだ」（NYタイムズ）

現在 マーサはスミソニアン博物館で飾られている（写真）

● バッファロー

1800年 茶色の巨大な動物が大地を埋めつくしていた（6千万頭）
面白半分に、インディアン全滅のために次々と殺されていった

1868年 絶滅寸前に保護に立ち上がった人たちが現れた（3頭が発見された）

現在 絶滅をまぬがれ6万頭に回復（もとの1000分の1）

● トキ（朱鷺、学名ニッポニア・ニッポン）

学名に日本の名を持つトキは、明治時代は日本中で生息し、朱鷺色の羽を広げて大空を飛んでいた。

1892年 保護鳥33種を指定したが、トキは除外された

1908年 保護鳥に指定、しかしすでに乱獲により絶滅寸前に

2003年10月10日7時

最後の日本産トキ「キン」が死亡し、絶滅。

※中国産トキも、日本の保護センター（61羽）と中国で約700羽だけ。



● 現状の絶滅は過去最大

● 気象変動、天変地異などで過去5回、生物の大部分が絶滅した
（オルドビス期、デボン期、二畳期、三畳期、白亜期）

二畳期（2億5千万年前）には90%が消滅

白亜期（6500万年前）には恐竜など75%が消滅

【地球環境問題】

●現在の絶滅は、過去のどの絶滅よりも急激で大規模に進行している

これまでは乱獲のための特定種の絶滅だったが、現在は生態系そのものの破壊 による根こそぎの種の絶滅である

毎年5万～15万種（毎日100～300種）が絶滅

⇒ 過去の絶滅の数万倍の速度で絶滅

すでに全生物種の25%が絶滅の危機

「生物多様性を保つことは既に手遅れ」

（99年国連UNEP報告）

「現在は大量絶滅時代に突入」

（03年米ワールドウォッチ研究所）

全生物種の25%が絶滅の危機

哺乳類 1 / 4

鳥類 1 / 9

爬虫類 1 / 5

両生類 1 / 4

魚類 1 / 3

植物 1 / 8

IUCNほか

●絶滅の原因

- ・以前は乱獲が原因であったが、現在は乱開発による生態系の根こそぎの破壊
- ・最大の原因は熱帯林の破壊
陸上の生態系は森林によって支えられている。特に熱帯林は生物の宝庫
- ・山の切り崩し、湖沼や河川の埋立、河川や海岸の護岸工事（コンクリート化）
- ・ゴルフ場、リゾート、コンビナートなどの開発、農薬、環境汚染
- ・環境破壊や開発の加速を考慮すると、種の絶滅の加速は予測不可能

●種の絶滅は人類の絶滅

- ・生物は互いに支え合っている。種の絶滅は生態系の崩壊を意味し、ドミノ倒しのように人類を含めた生物の全滅につながる可能性がある
- ・すでに生態系が弱まり、生物の免疫機能や生殖機能の低下が始まっている（アトピー、アレルギー、ガン、エイズなど）
- ・全滅へのドミノ倒しが始まる可能性がある

●私たちにできること

- ・毛皮のコート、野生生物の皮やハクセイなどを買わない、使わない
- ・野生生物（ペットや熱帯魚も）を飼わない
- ・環境破壊のリゾート（ゴルフ、スキー、テーマパークなど）を利用しない
- ・無農薬ものを買う
- ・輸入品の利用を減らす（輸入は相手国の環境破壊につながる場合が多い）
- ・空気、水、土を汚さないよう心がける
- ・自動車の利用を減らす／生活排水／ゴミを減らす／過剰な消費をしない
- ・大量消費、大量廃棄をやめる

我々は知っている

すべての生命は、一つの生命の織物であり、

これを編んだのは我々ではなく、我々は一本の織糸に過ぎないことを

生命の織り物に対して行なったことは自分自身に降りかかってくることを

（1854年 シアトル酋長がアメリカ大統領に宛てた手紙）